

六日、馬車を驅りてカイバルに向ふ。恰も好し是日印度軍總司令部參謀長マルテン少將、該要塞を巡視するに會ひ。同行の榮を得て、アリマスジットに到り、茲に少將と分袂してペシワールに歸る。

七日、鐵路東進。

八日、ラホールを経てテンバラに到り、此に原氏と分袂す(同氏はデラドンに向ふ)九日、デリー着。千八百六十七年印度叛亂の記念碑及當時の血戰場たるカシミヤゲート外に、ニコルソン中將の銅像を拜して、英雄興亡の跡を訪ひ、轉じて印度帝國全盛時の宏壯なる宮殿を觀覽し、盛衰轉變の極り無きに感ず。

十日、アグラ着。有名なる世界の建築、タヂマホール(陵)及キングアクバル(宮殿)を拜觀す。

十一日、ガヤ着。

十二日、ブダガヤに釋尊の靈跡を拜す。

十三日、カルカッタ着。飯島總領事の好意に因り、同官舎に滞在すること九日。此間稻垣中佐の懇切なる誘導に依りて、東洋一の稱ある動物園、植物園、博物館等を觀